

なぜ、昔のことがわかるのかな？

みつけたよ 昔の カ・ケ・ラ!!



①ひいおじいちゃん・ひいおばあちゃんの時代のお茶わん



三田で作られた陶器
～魚のもよう付き～
約100年まえ

②おさむらいさんがいた時代のおかね

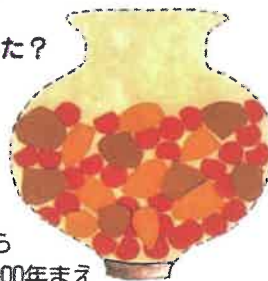


寛永通宝
約400～200年前

③石でできた矢のさき
(約2000年まえ)



④食べものをたくわえていた？

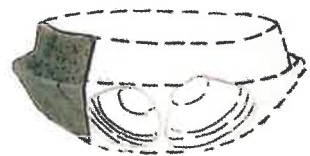


壺の底のかけら
弥生土器 約2000年まえ

⑦石でできた
ネックレスの一部
約1500年まえ



⑥水入れ、食べもの入れ。
使いみちいろいろ
坏のかけら
須恵器 約1500年まえ



⑤水もれしない
壺のくびのかけら
須恵器 約1100年まえ



さんだのあけぼの (旧石器時代)

約2万年から3万年前のころの三田では、市内の中央部から北部の台地のうえをナウマンゾウやアケボノゾウなどの動物を追う、ハンターの一家がキャンプのようなくらしをしていました。わたしたちの遠い祖先です

大昔から人が住んでいた!



古代のさんだ 歴史年表

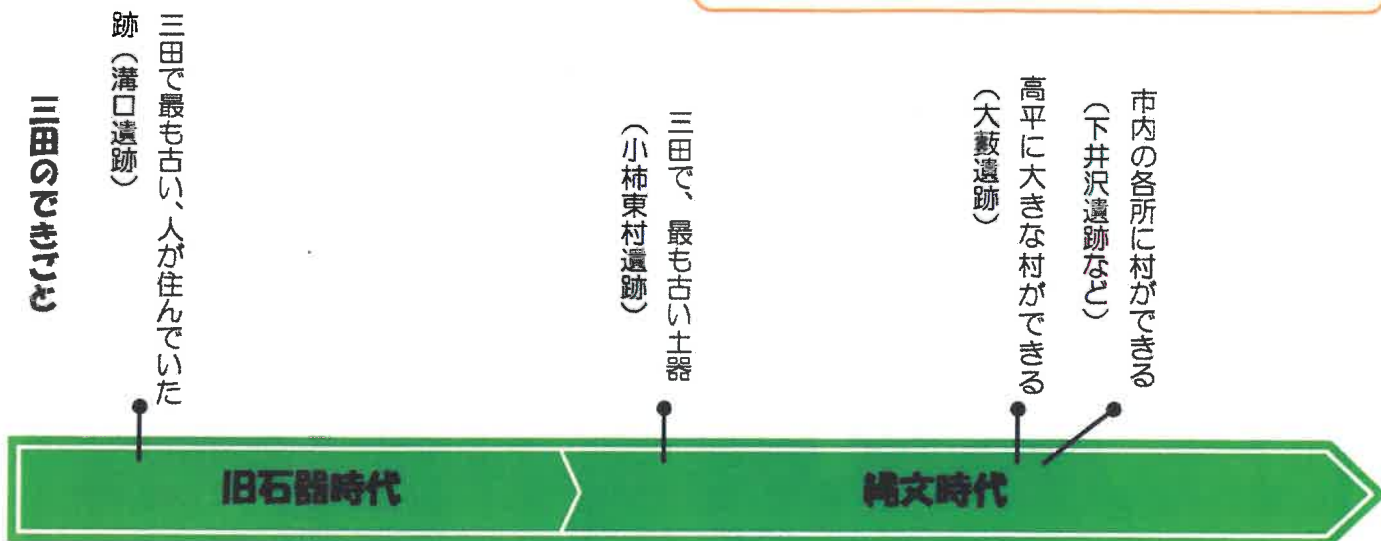
原始		縄文		弥生	古墳		古代					
旧石器							飛鳥	奈良	平安			
BC180,000 18,000ころ	BC15,000 10,000ころ	BC 12,000 ころ	BC 7,500 ころ	BC 300 ころ	239	300ころ 350ころ	538 592?	645	710	752	794	1167
大陸から人類やナウマン象が移動する	日本列島ができる	縄文土器や弓矢の使用がはじまる	自塚ができる	倭奴国王が後漢(中国)に使いを送り金印を授かる 大陵から稲作や金属器伝わる 弥生土器の使用がはじまる	邪馬台国女王卑弥呼が魏(中国)に使いを送り朝貢などを授かる	近畿・瀬戸内海地域に古墳が出現する 畿内政権による畿内の統合が進む	百濟(朝鮮)から仏教が伝わる	大化の改新がはじまる	郡が平城京(奈良)に移る	東大寺ができる	郡が平安京(京都)に移る	平清盛が太政大臣となる
BC24,000 30,000ころ	BC 11,000 ころ	BC 5,000 ころ	BC 5,000 ころ	BC 200ころ	BC 100ころ	500ころ	690 すぎ	700 年代				
三田で、最も古い人が住んでいた跡(溝口遺跡)	三田で、最も古い土器(八柿東村遺跡)	高平に大きな村ができる(大野遺跡)	市内の各所に村ができる(下井沢遺跡、加茂六地藏遺跡)	石包丁をつくる村ができる(三輪餅印遺跡)	畑で囲まれた大きな村ができる(天神遺跡)	須置器が焼かれはじめる(末古窯跡群) 丘や山の上に続々と村ができる(祭カリ与遺跡、大山遺跡、有馬遺跡、平方遺跡、中西山遺跡など)	焼き物の棺(博地谷古墳) 市内に古墳が築かれる(加茂古墳群、宮脇古墳群、東仲古墳など) 埴輪をもつ古墳(芳ノ塚古墳群) 冠をかぶった王(西山6号墳)	三田ではじめてのお寺がつくられる(層敷明遺跡、金比寺址遺跡)	大規模な建物群がつけられる(芳ノ塚遺跡など)	末の周辺でおおむね須置器がつけられる(末古窯跡群)	鏡の印鑑をもつ豪族が住む(書志下所遺跡)	藍地区周辺でおおむね須置器がつけられる(柘籠古窯跡群)

旧石器時代（～約1万年前）

氷河期であった旧石器時代は、海面が低くなり日本列島が大陸とつながり、動物や人類が陸づたいに日本にやってきました。

縄文時代（約1万年前～紀元前3世紀ごろ）

縄文時代は約1万年間続きました。縄文時代には土器の制作が始まり、ムラが作り始められました。



石斧

名称は「石斧」ですが、最近では細いほうに長い柄をつけて土を掘る道具であると考えられるようになりました。野山の^{（せんがい）}根菜類を掘るなどに使われました。



溝口遺跡

ナイフ形石器

剝片（原石から割取った石のかけら）の一部を細かく割って作った、鋭い歯と、とがった先端を持つナイフのような形をした石器。ヤリのように棒の先に取り付け、狩りの道具として使われました。



溝口遺跡

縄文土器



小柿・東村遺跡

布木・堂ノ前遺跡



表面を平らにするための縄（撚り糸）をころがしてつけた、文様を持つものが多いので「縄文」土器と呼ばれます。縄以外に、貝で文様をつけたものも三田から出土しています。

土器が作られるようになったことで、食べ物を煮炊きできるようになり、ドングリのような生では食べられなかったものが食べられるようになりました。また、煮炊きだけではなく食べ物を貯蔵するためなどにも使われました。

下の写真は深鉢という形の土器で、縄文土器の約7割がこの形をしています。

有舌尖頭器

有舌尖頭器はヤリ先として作られました。この時代はまだ弓矢が使われておらず、他の動物を狩りするのに重要なものでした。



木器荘園内遺跡

じょうもん
**縄文時代を
見てみよう!**

— 焼くから炊くへ —

これは縄文土器といって
日本で初めての土器よ。



これで煮炊きかできて
料理がおいしくなったわ。

僕らは季節の食べ物を
何でも食べていたんだ。
好き嫌いはだめだよ。

イラスト JEDA TAMAE

わしらは旧石器時代
から来たんじゃ

その道具は何じゃ?

その変な形のものなあに?

これは弓矢だよ。
僕らが発明したんだ。
すばしっこい動物も
いちごころさ。



縄文人ってどんなヒト?

縄文人の顔は、ほりが深く、まゆ毛は太く濃く、目は二重まぶた、鼻も大きく、クチビルは厚かった。顔が大きく、横長の四角いがっしりした作りだった。縄文人は成人式や結婚式、あるいは葬式の時に、わざと歯を抜く習慣もあったという。



出典: IPA「教育用画像素材集サイト」<http://www2.edu.ipa.go.jp/gz/>

弥生時代（紀元前3世紀頃～

紀元後4世紀頃）

木製農具・石包丁を用いた本格的な水田稲作がはじまりました。青銅器や鉄器が普及し、石器が少なくなりました。また、貧富・階級の差が発生しました。

再び平地に村がまじる（川除遺跡）
 丘や山の上に続々と村が建てられる（奈カシ与遺跡）
 堀で囲まれた大きな村ができる（天神遺跡）
 石包丁を作る村ができる（三輪餅田遺跡）



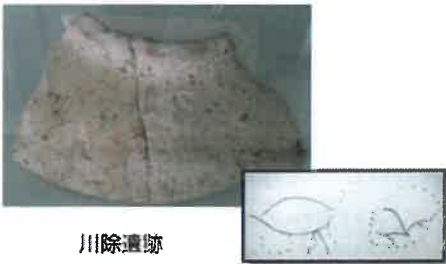
弥生土器

弥生土器は、覆い焼きと呼ばれる上から泥などをかぶせて焼く方法で焼かれています。この方法により、弥生土器は縄文土器よりも固く、薄く、均質に焼き上げることが可能になりました。また、弥生土器は壺、カメ、鉢などたくさんの形が作られるようになったことも特徴の1つです。



上井沢・小屋垣内遺跡

絵画土器(弥生土器)



川除遺跡

この土器にはシカが描かれています。このように、弥生時代の土器にはシカがたくさん描かれています。シカの生産時期と稲刈りの時期が重なるため、大昔の人々はシカを特別な存在として考えていたのでしょう。

手あぶり形土器(弥生土器)



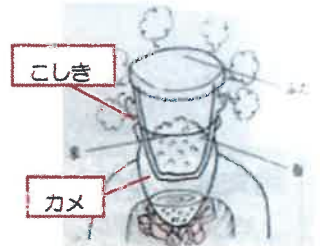
三輪・宮ノ越遺跡

火を入れて手をあぶるような形だから、手あぶり型土器という名前になりました。あまり出土しないことから、単なる暖房や照明の道具ではなく、火を使った特殊なまつりなどに使われたと考えられています。

こしき(弥生土器)



上井沢・小屋垣内遺跡



<使い方>

カメの中に水を入れると、沸騰した蒸気がこしきの底の穴からあがってきて、米を蒸します。



天神遺跡

石包丁は長さ10cmほどで、稲など穀類の穂をつみ取るのに使われました。ひもを通す穴があります。三田から出土した石包丁の多くは、有馬川の付近から取れる塩田石しほえいしで作られたものです。

いしほうちょう
石包丁

やよい 弥生時代を 見てみよう!

僕らは縄文人。
弥生時代を
見てみよう。

そのおいしそうな食べ物は何?

あのぴかぴか光るものはなんだい?

— 狩りから刈りへ —

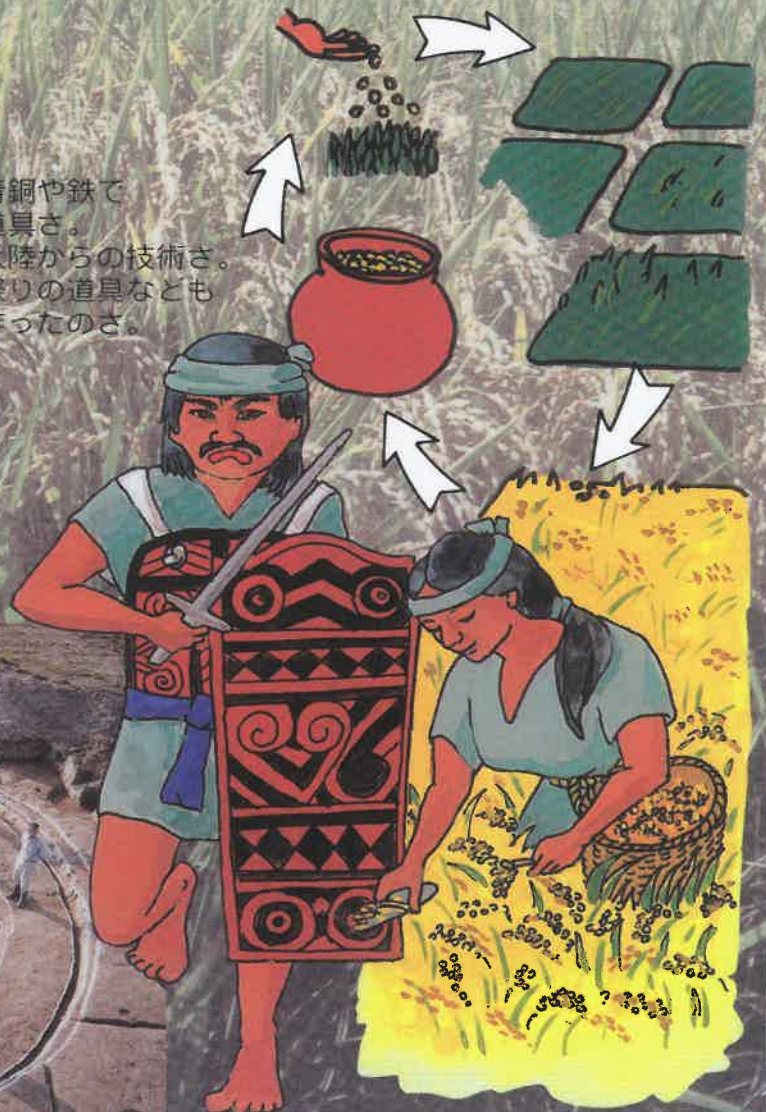
これはお米よ。
私たちが大陸から持ってきて植えたの。

これで、一年間食べ物に安心ね。



これは青銅や鉄で
できた道具さ。
これも大陸からの技術さ。
農具や祭りの道具なども
これで作ったのさ。

でも、武器も作って
戦争も始まった。



稲穂遺跡(山形)の円形竪穴住居

弥生人ってどんなヒト?

弥生人の顔は縄文人と違い、顔は上下に長く、のっぺりとしていいる。鼻は低く、まぶたは厚く一重である。縄文人に比べるとマユもヒゲもうすい。また、歯のかみ合わせは、上顎と下顎の歯がはさみのようにすれ違っている。



出典: IPA「教育用画像素材集サイト」<http://www2.edu.ipa.go.jp/gz/>

古墳時代(紀元後4世紀頃～)

3世紀から7世紀にかけて作られた豪族などの墓を古墳といい、この時代を古墳時代といいます。古墳を作るためには多くの費用や人材などが必要のため、当時の豪族たちが強い権力や優れた技術を持っていたことが分かっています。

500年ころ

須恵器が焼かれはじめ
(末古窯跡群)

(奈良山古墳群)

振ると音が鳴る鈴器台付はそ
うをもつ古墳

(芳ノ塚古墳)

埴輪をもつ古墳

(宮脇古墳群など)

市内に古墳が多く築かれる



すえき 須恵器

青く硬く焼きしまった土器で、古墳時代中頃に朝鮮半島から伝わった技術で焼かれた土器です。窯が使われるようになったことで、縄文・弥生土器よりも硬く焼くことが可能になりました。須恵器はまたたく間に全国に広がり焼かれるようになりました。その後15世紀に至るまで須恵器の伝統は続きました。



奈良山古墳群第7号墳

はそう(須恵器)



奈良山古墳群第7号墳

胴の部分に小さな穴をあけたもので、穴に管をさして液体(水や酒)を吸ったり注いだりしたものと考えられています。また、写真の鈴器台付はそうには土でできた玉が入っており、振ると音がなります。

ていへい 提瓶(須恵器)



奈良山古墳群第7号墳

つぼ型の土器を押しつぶしたような形で、取っ手がついており、現在の水筒のような携帯用の容器であったと考えられています。

ちよくとう とうす 直刀・刀子

直刀は、刀身がまっすぐで反りのない刀です。日本では平安時代中期頃まで用いられました。刀子は、奈良～平安時代初期の刀剣の一種で、後の小刀にあたります。



奈良山古墳群第7号墳

はにわ 埴輪



芳ノ塚遺跡

埴輪とは土を素焼きして作られたもので、古墳のまわりに並べられていたものです。埴輪には、動物埴輪や家形埴輪など様々な形がありますが、なかでも写真のような筒状の円筒埴輪がもっともよく作られました。

こふん 古墳時代を 見てみよう!

—クニから国家へ—



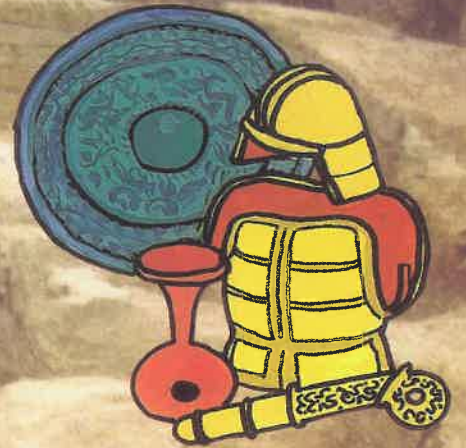
俺たち弥生人さ。
古墳時代ってどんな時代?

あの巨大なものがお墓?

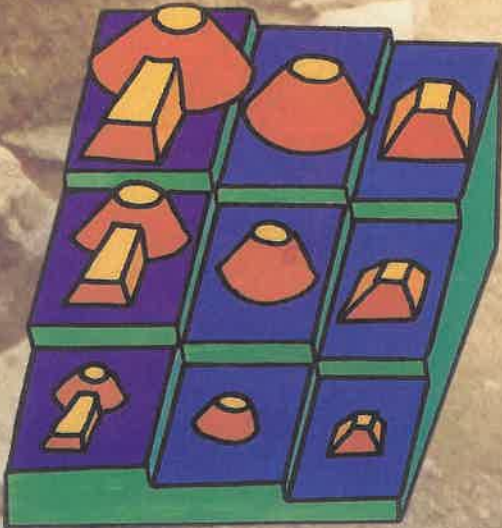
中に何が入っているの?

ただの墓ではないぞ。
わしらは古墳の形や大きさに
権力を表したんじゃ。

わしのために前方後円墳を
今、作っているのだ。



始めのころは権力を表す
鏡などを入れたのよ。
この頃は死後の世界で
生活できるように
土器などが多いわね。



新出た古墳の出土品イメージ



上野ヶ原古墳(大原)の横穴式石室

イラスト:UEDA TAMAE

古代のアクセサリー

まが玉は、古代アクセサリーのひとつで、曲玉とも呼ばれる。縄文時代の玦状耳飾りが原型と考えられ、日本の縄文時代の遺跡から発見されるものが最も古いといわれている。古墳時代は権威の象徴と考えられ、豪族たちがかざるのに大きさ、数、形を競ったようだ。



東家地古墳の出土首飾り



福島古墳の耳環

奈良時代(710~794年)

710年に都が平城京へ移り、奈良時代がはじまりました。仏教が国家からあつく保護され、日本中でお寺が造られました。

690年すぎ

三田ではじめてのお寺がはじまる
(屋敷町遺跡)

700年代

(芳ノ塚遺跡など)

大規模な建物群がつけられる

(末古窯跡群)

末の周辺で多くの須恵器がつけられる



のきがわら 軒瓦

瓦は建物を雨からまもるもので、多くの場合軒先には文様を施した「軒瓦」を用います。

現在はいろんな建物の屋根に瓦が使われていますが、瓦葺きの建物は、588年に現在の韓国から招かれた瓦博士をはじめとする寺院建築の専門家によって造られた飛鳥寺(奈良県)がはじめてで、瓦はお寺の一部として日本に伝わりました。

また、奈良時代に、お寺以外の建物にも瓦が使われるようになりましたが、お寺、駅、役所などでしか、瓦は使われませんでした。金心寺跡(廃寺)からは、多くの瓦が出土しているので、三田にも瓦葺きの建物が建っていたことがわかります。

軒丸瓦



軒平瓦

金心寺跡(廃寺)

すすり 硯

円面硯



南が丘・打上がり遺跡

転用硯



屋敷町遺跡

奈良時代には文字の使用が急速に進み、硯と墨は必要不可欠な道具となりました。主に役所や寺で使用されたようです。

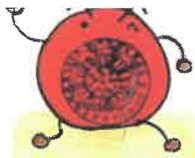
円面硯は古代の硯の一種です。上の平らな面が硯の面になっています。また、壊れてしまった須恵器の皿やふたを硯として再利用したものもあります。それを転用硯といいます。

がとう 瓦塔

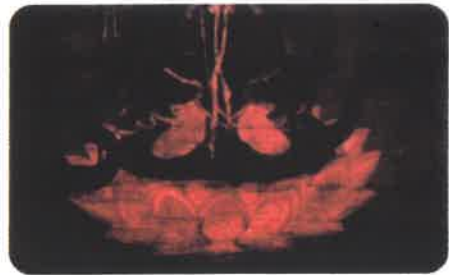
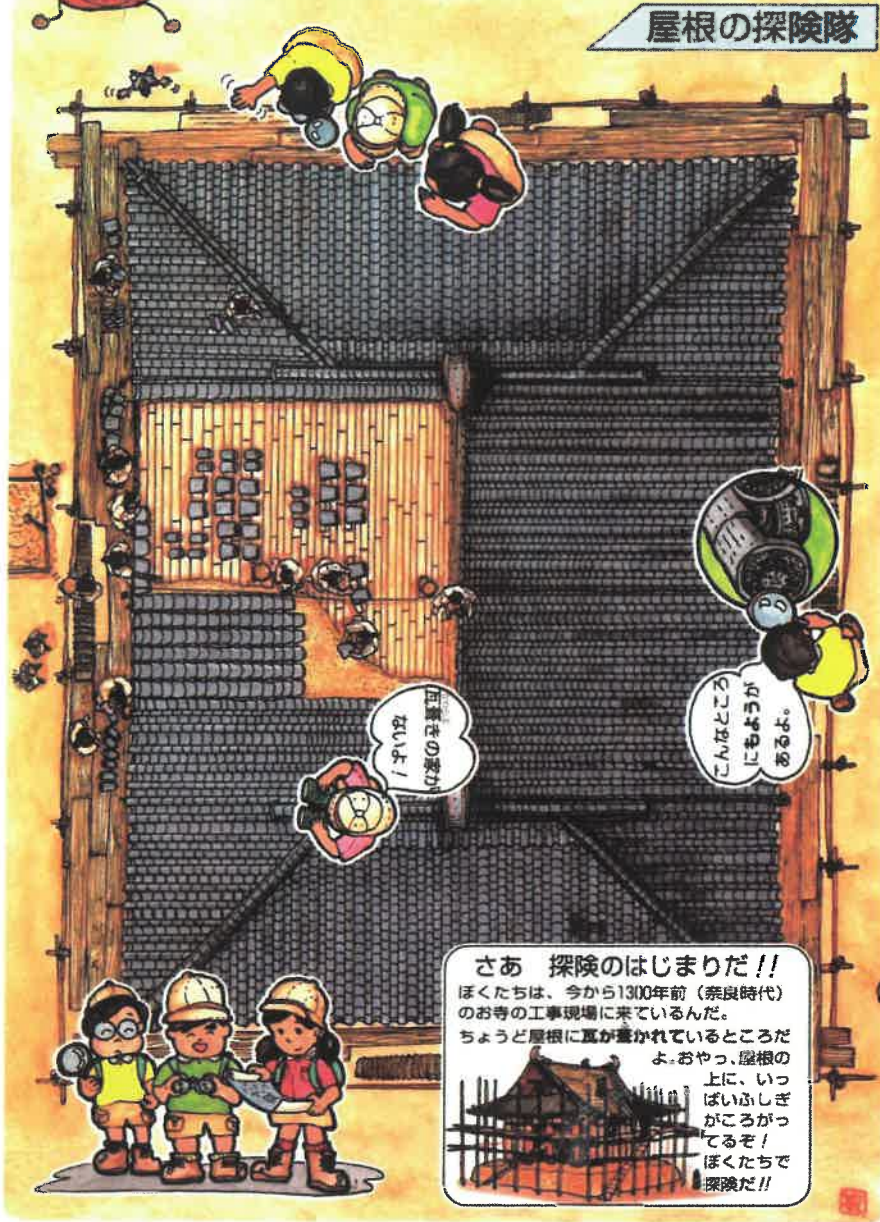


金心寺跡(廃寺)

須恵器の塔。木造の塔の形を模して各層ごとに焼いてから組み立てたものです。建物の塔にかわって屋外または堂内に安置されたといわれています。



屋根の探険隊



蓮華座にのる観音様
(軒瓦には蓮の花のもようがある)



"寺"の文字



井戸から出てきた土器たち

学校のまわりの遺跡

(凡例 / 地区・場所：年代)

溝口遺跡 (本庄・溝口、テクノパーク：今から2万4千年前から3万年前)

三田で最も古い遺跡。当時の人びとはゾウや野牛、シカなどを追ってくらすハンターの暮らしをしていた。キャンプのあとや当時につかっていた石の道具(石器)が見つかった。



小柿東村遺跡 (高平・小柿：今からおよそ1万年前)

縄文時代になると、土を使った器が発明された。これを土器という。東村遺跡からは、縄文時代はじめころの土器と石器が出土した。



大藪遺跡 (高平・上槻瀬：今から5千から9千年前)

縄文時代はじめころから後半にかけての遺跡。縄目を利用したり、貝殻をつかったいろいろなもようの土器が見つかった。



天神遺跡 (三田・天神3丁目：今から2千年前・4百から2百年前)

天満神社周辺の台地の上の遺跡。2重の堀をもつ弥生時代の村のあとが見つかった。石の剣が出土するなど、三田の弥生時代の村を代表する遺跡。この台地の上には、のちの時代にお侍さんの屋敷もつくられ、その跡も発掘された。



三輪餅田遺跡 (三輪・三輪1丁目、高次1丁目：今から2千百年前)

弥生時代はじめと終わりころの村の跡。水路を堀のかわりとしている。稲の穂をつむ石包丁をつくっていた。のちの千年前から6百年前までにも多くの家がつくられた。



奈カリ与遺跡 (ウッディタウン・すすかけ台：今から2千年前)

弥生時代のなかばすぎには、それまで平地にあった村が小高い丘につくられるようになった。奈カリ与遺跡は、そうした遺跡のひとつとして、はじめに見つかった遺跡。このころはまだめずらしかった、鉄の斧なども多く出土した。また、のちの時代には、古墳やお城もつくられた。



平方遺跡 (ウッディタウン・けやき台：今から2千年前)

三田の小高い丘に作られた村のひとつ。ここでは、祭りにつかっていた銅鐸(どなたく：銅合金でできたベル)をつくる型が見つかった。となりの丘には同じ時期の中西山遺跡があり、古い鉄の斧が出土した。平方遺跡では、のちの時代に古墳や焼き物の窯跡、お城もつくられた。



(ウッディタウン・けやき台：今から2千年前)

有鼻遺跡



三田の小高い丘に作られた村のうち、もっとも大きい村。家のあとは60棟見
つかった。鉄の工具も多いが、石の道具もここで作っていたことがうかがえる。
近畿地方でもっとも古い鉄の剣が出土した。

遺跡の北には古墳（有鼻古墳群）があり、東には中世の山城跡の風呂が谷城
跡もある。遺跡の一部と古墳はけやき台公園になっている。

(三田・相生町、対中町：今から2千3百年前)

対中遺跡



三田で米づくりがはじまったころの水路跡が見つかった。のちの奈良時代に
は建物跡や井戸などもつくられた。

(三輪・三輪：今から2百年前)

三田焼三輪明神窯跡群



ふるさとの焼き物三田焼の窯跡。江戸時代から昭和にかけてののぼり窯が3
つ、焼き物をつくる細工所のあとなどもみつかった。もっとも大きい窯は全長
50mもある。現在は県の史跡として指定され、三田市三輪明神窯史跡園として
焼き物体験と学習のできる史跡公園となっている。兵庫県指定史跡。

(三田・天神2丁目、屋敷町：今から4百年から2百年前)

三田城跡(三田陣屋跡)



室町時代に三田を治めていた有馬の殿さまが台地のうにに作った城がはじま
り。のち、荒木、山崎氏が入り、城下町がととのえられた。江戸時代には九鬼
氏が入り明治までおさめた。九鬼氏は城を廃して館をつくり「陣屋」とした。
堀、五輪塔をつかった井戸、陣屋かまど跡がのこる。現在の有馬高等学校と三
田小学校の場所。

(三田・屋敷町：今から千3百年前から2百年前)

屋敷町遺跡



三田城のお殿様は、お城につづく小高い台地のうにに家来を住ませた。その屋敷の跡
が遺跡となっている。ここは約千3百年前に有馬郡ではじめてお寺がつくられた場所であ
った。その跡が屋敷跡の下に埋もれており、金心寺址廃寺と呼ばれている。お寺の瓦は、
藤原京(奈良)につくられた旧薬師寺と同じ系統の文様をもつ。お寺をつくった豪族と都と
のかかわりをうかがわせる。また、本物の塔のかわりに作った粘土の塔の破片も出土した。

(三田・西山1丁目、2丁目：今から千5百年前)

芳ノ塚遺跡



屋敷町の台地のうにつくられた古墳群と村のあと。そのおよそ百年後には、
そばに古代寺院がつくられ、まわりに村ができあがったので、古墳は削られて
埋もれてしまった。古墳のあとから埴輪（はにわ）が出土するなど三田では特
徴のある11基の古墳のあとが確認されている。

(ウッディタウン・けやき台：今から千5百年前)

西山6号墳



武庫川を見おろす丘に作られた古墳のひとつ。全長35mの前方後円墳。冠をかぶ
り、飾り太刀をもった人物が埋葬された。三田を治めていた人物かもしれない。こ
ののち、6号墳のある尾根や斜面には多くの古墳がつくられた。なかには、丸太を
組んで棺の部屋をつくる古墳もみられた。

周辺には、ウッディタウン中央公園となっている奈良山古墳群、奈良山遺跡もある。

東仲古墳 (広野・末：今から千4百年前)

青野ダムのある末の里の一番奥につくられた古墳。石で組んだ部屋（横穴式石室）をもつ。入り口には大きな岩を組み、内部のかべに石の張り出しをつくる。この張り出しは、ほかのところでは見られない。三田市指定史跡。



末古窯跡群 (広野・末：今から千5百年前から千百年前)

青野ダム周辺の末地区では、かつて古代の焼き物「須恵器（すえき）」が焼かれていた。地名もこのことにちなむ。兵庫県でも早いうちに焼き物づくりの技術が伝わり、奈良・平安時代へと5百年ちかく続いた焼き物の里であった。



相野古窯跡群 (藍・下相野、上相野、西相野、四ツ辻、つつじが丘：今から千年前)

末の里でつくられた焼き物は、およそ千年前に丹波・播磨との境にちかい相野周辺でつくられるようになった。そののぼり窯の跡がのこっている。



上相野鳶が尾窯跡 (藍・上相野：今から3百年前)

丹波焼というと、お隣の篠山市今田町がよく知られているが、実は三田市内でも焼かれていた。壺や甕以外にスリ鉢などを焼いていた。



加茂古墳群 (広野・加茂、東野上：今から千5百年前)

三田市内でもっとも大きい古墳群。山の斜面に約50基かい古墳群がつくられている。石室をもつ古墳が多く、なかには部屋の奥に棚をもつものもある。



川除古墳群 (三輪・川除、友が丘：今から千5百年前)

8つの古墳からなる。発掘された古墳は、直径8mで3つの棺が葬られていた。また、古墳周辺にも棺がみつき、盛り土をする古墳以外の埋葬方法もあることがわかった。松ヶ丘学校内に古墳は再現されている。



富士山古墳群、西ノ曾古墳群、芥子塚古墳 (三輪・大原、志手原、尼寺：今から千5百年前)

横穴の石室をもつ古墳群がある。この地域は三田盆地の次に古墳の多い地域である。



(三輪・志手原：今から2百年前)

三田焼志手原新窯、古窯群



志手原周辺は、三田焼のはじまった地域という伝承がある。その窯はわからないが、江戸時代の終わるところから昭和のはじめまでの窯跡がこのころ。三田焼のなかでも赤絵・色絵という器を中心につくっていた。また、かつて成谷では焼き物の原料となる石も取れたという。

(小野・小野：今から5千年前から5百年前)

伊勢貝遺跡



小野地区の谷のまん中で発見された遺跡。縄文時代後半からいろいろな時代のくらしの跡が見つかった。古墳時代には竪穴の家のあとがつくられた。この地域ではもっとも古い遺跡。

(小野・母子：今から8百年前)

東の下遺跡



母子で見つかった村のあと。平安時代おわりころの屋敷のあと、屋敷の中心人物の墓も見つかった。母子の暮らしを知るてがかりとなる。

(本庄・東本庄：今から千5百年前)

茗荷谷古墳群



横穴の石室をもつ古墳群。古墳がくずれないように石垣がつくられていた。三田にはこのように石垣や石を積む古墳がかなりの数みついている。

(フラワータウン・武庫が丘：今から2千年前)

下深田大山遺跡



三田の小高い丘に作られた村のひとつ。現在は深田公園となっている。

(本庄・東本庄：今から5百年前)

亀が森墳墓



東本庄の台地のうえでは中世の村のあとやお墓のあとなど、そのころのありさまが想像できる遺跡がそこかしこで見ついている。となりの中筋遺跡では、古い丹波焼のカメなどが多く見つかり、焼き物をあつかう人びとが広く住んでいたあともかもしれない。

(藍・藍本庄：今から2千年前・5百年前)

藍本庄遺跡



武庫川の一番上流の遺跡。弥生時代の土器や石器、石器の作りかけなどが出土した。そのほか、中世のおわりころの村あとも見つかり、この地域の藍岡山城をかまえた豪族とのかかわりが想像される。



発行：三田ふるさと学習館
 企画：NPO法人歴史文化財ネットワークさんだ
 問合わせ先：三田ふるさと学習館
 〒669-1532 三田市屋敷町7-33
 TEL/FAX 079-563-5587
 参考資料：三田市冊子『ぼくとわたしの考古学』

